

## 【大会長挨拶】

### 第 51 回日本熱帯医学会総会の開催にあたって

第 51 回日本熱帯医学会大会

大会長 賀来 満夫（東北大学大学院医学系研究科教授）

第 51 回日本熱帯医学会大会を開催するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。

日本熱帯医学会は 50 年を超える歴史がある学会で、多くの先生方の御努力により、着実な歩みを遂げ、熱帯医学分野の研究の進歩発展はもちろんのこと、国際協力や人材育成の分野にも大いに寄与されてまいりました。このような伝統ある日本熱帯医学会を仙台で開催できますことを誠に光栄に存じております。

近年、感染症は急速な変貌を遂げ、さまざまな新興・再興感染症の発生とともに世界的な問題として、私たちの前に立ちはだかつてきています。すなわち、公衆衛生の普及や優れた抗微生物薬の登場などにより一見制圧できたかに見えた感染症は再び私たちの前に大きな“危機：クライシス”として蘇ってきており、“感染症のグローバル化そしてその脅威”に対し、いかに対応していくべきかが大きな課題となっています。このような状況の中、私たちに必要なことは急速な変貌を遂げる感染症に対して、今こそ原点を見直し、基礎と臨床分野はもちろんのこと、さまざまな専門分野が連携・協力して総括的に対応していくことが不可欠と考え、本大会のメインテーマを「熱帯医学におけるさらなるネットワーク構築を目指して」といたしました。

本大会の会期は2日間ですが、原点と未来、連携・協力、ネットワークをキーワードに、5 題のシンポジウム：「熱帯医学の新たなパラダイム」、「熱帯医学分野におけるグローバルネットワーク- 国際協力・研究・人材育成 -」、「熱帯地で問題になる人獣共通感染症」、「海外渡航者のためのワクチンガイドライン」、「熱帯地域における感染制御 - その現状と課題 -」、1 題のワークショップ：「熱帯感染症の臨床」、3 題の教育講演：「バイオテロリズムに対する感染症危機管理」、「パンデミックインフルエンザの総括と今後の対応」、「口蹄疫 - そのインパクトと我々にもたらしたもの」を企画させていただきました。さらに、学会第一日目には「日本熱帯医学会賞」、「研究奨励賞」の受賞講演 2 題の発表が予定されております。加えて、一般演題発表は 55 題の応募をいただいております、すべての発表が非常に興味深い内容となっており、参加される多くの方々にとって極めて有用なものとなることを確信いたしております。

感染症はまさに“社会全体の危機：クライシス”そのものであり、基礎・臨床両分野における研究のさらなる進展とともに、新たな視点に基づいたネットワーク、コンソーシアムの構築が望まれます。本大会がそれらの目的を満たす学術集会として重要な機会となることを期待し、一人でも多くの方々に御参加いただきますことを祈念いたしております。